

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.alpha-grp.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場

株主さま向け
アンケート

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をとお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

※右記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

※アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media (イー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media についての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900(平日 10:00～17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3322

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



TO MAKE OUR CUSTOMERS SMILE

第18期 報告書

平成26年4月1日 — 平成27年3月31日

アルファグループ株式会社

〒150-0011 東京都渋谷区東一丁目26番20号
東京建物東渋谷ビルディング14階
TEL:03-5469-7300(代表) <http://www.alpha-grp.co.jp>

※ご意見・ご要望はメールアドレス ir-info@alpha-grp.co.jpまでお願いいたします。



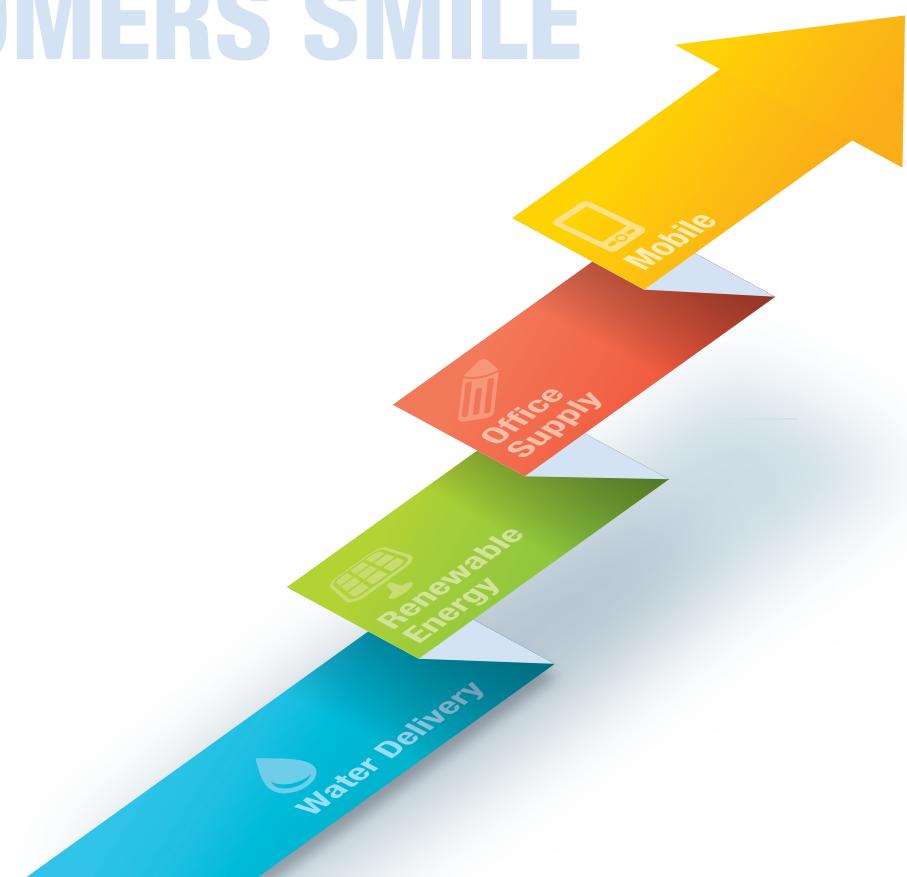
PROJECT-
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。



UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



安定的に、継続的に、 「よりよく」を届ける 市場創造者として――



株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

その市場黎明期より“モバイル事業”を展開してきたアルファグループは、現在はオフィスサプライ事業、水宅配事業、そして再生可能エネルギー事業を加えた4つの事業を核にビジネスを展開しております。これらの事業はいずれも、急成長よりも安定的な継続性を重視する「STOCK」型ビジネスであり、当社グループは着実な一步一步の積み重ねを大切にしながら、より堅固な経営基盤を構築できるよう日々努めてまいりました。

創業以来、アルファグループは人と社会が「よりよく」続いていくために必要とされる商品やサービスを広める担い手として、また、すでにある成熟市場に変化を仕掛け、未踏の領域に需要を創り出し続けてきたマーケットクリエイター集団として、成長を続けてまいりました。今後も当社では、すべてのステークホルダーの方々のご期待にお応えできるよう、「STOCK」経営の基盤をさらに固め、継続的な企業価値向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 吉岡 伸一郎

第18期(平成26年4月1日～平成27年3月31日)の業績、及び事業の概況についてご報告申し上げます。

Q 第18期において注力された経営施策やその成果などについてお聞かせください。

A 円安と株高の進行を背景に日本の金融市場が順調に推移し、経済・金融政策の効果が徐々に表れ始める一方、今なお市場環境は絶えず変化しており、先行き不透明な状態が続いております。こうした中、「持続的成長に向けた基盤を構築する期」と位置づけた第18期は、アルファグループにとって大きな変革を成し遂げることができた年となりました。

当社グループは経営体制の一新を図り、スピード感のある経営判断を可能にした環境のもとで、改めてこれまで展開してきた既存事業について選択と集中を進めました。この結果、私たちが目指している「STOCK」型ビジネスとより親和性の高い、主力のモバイル事業、豊富なノウハウを有するオフィスサプライ事業、さらに近年積極的な投資を進めてきた再生可能エネルギー事業、そして水宅配事業の4つに事業を集約し、経営資源を効率的に配分・投下できる体制を整えました。

この第18期に行った各種取組みにより豊かな「STOCK」を積み上げて、景気変動やいかなる事業環境の変化にも対応できる体質を育み、実り多き次の10年、次の20年へ向けた確かな礎を築いていきたいと考えております。

Q 各事業セグメントにおける取り組みやその成果についてはいかがでしょうか？

A モバイル市場はすでに成熟期を迎えており、通信キャリア全体の販売店支援も低下傾向にありますが、モバイル事業においては人気スマートフォン端末の新機種発売や新料金プランの導入などによって携帯電話端末の販売が非常に好調で、第18期における業績は期初の予想を大きく上回る結果となりました。施策については、「代理店との協力・サポート体制の強化」を重視する方針を継続し、新規出店や店舗改装のコストの支援に取り組みながら、店舗スタッフの教育・接客サポートツールを独自開発し、スマートフォンなどの多機能化・高機能化などに伴って複雑化する接客対応への教育コストの抑制に努めました。なお、当社がこれまでの直営店舗の運営で培ったノウハウを網羅したこのサポートツールの有意性と優位性は非常に高く、当社ではこれを自社グループ内だけでなく、他の携帯電話販売店などにも販売して収益を得る新たなビジネスを展開しております。

一方、オフィスサプライ事業の業績は前年とほぼ同水準で推移いたしました。事業開始からすでに約13年が経過した本事業は、当社グループにとっても安定した事業のひとつとなっております。本事業では、長年にわたって効率的な顧客獲得のためのトークスクリ

第18期 連結業績
(平成27年3月期)

売上高

31,490
百万円

営業利益

505
百万円

経常利益

444
百万円

当期純利益

397
百万円

プトなどのノウハウの蓄積や経費節減に努めてまいりましたが、第18期は、長期にわたって販促効果を上げるべく、コール時に継続利用を促す説明を加える、といった新たな施策にも注力いたしました。また併せて、より一層の販売管理費削減を図るために愛媛コールセンターの移転を実施しております。

再生可能エネルギー事業については、前期からの積極的な投資が実を結び、「売電による収益」及び「案件の転売による収益」といった利益を上げられる体制が整い、第18期は増収増益を達成することができました。今後も本事業のビジネスモデルの将来性をしっかりと見極めながら、継続的かつ安定的に収益を上げていけるよう努めていく考えです。

なお、すでに新規顧客の獲得を停止している水宅配事業については、追加投資なく既存顧客に対するウォーターパック販売のみで確実に利益を上げられる「STOCK」体制を維持しております。またIT事業につきましても、前述した既存事業の選択と集中を進める中で、平成27年4月1日をもって撤退することとなりました。

Q 第19期における取り組みテーマや目標などについてお聞かせください。

A 第18期に実施した事業の選択と集中の結果、管理部門の集約・強化と販売管理費の大幅な削減を実現しており、それぞれの事業で管理面や収益面が安定化したことから、この基盤を足場に第19期はさらなる飛躍を遂げたいと考えております。

モバイル事業については、特に好立地エリアへの出店に注力すると共に、教育・接客サポートツールによる接客スキルの向上と標

準化に取り組んでまいります。併せて他社へのサポートツール販売にもさらに力を入れ、新たな収益源として育てていきたいと思っております。また、参入したばかりの携帯電話法人向けサービスもさらに本格化させると共に、注目を集める「MVNO(仮想移動体通信事業者)事業」についても、その市場動向や可能性を見極めながら、いつでも即座に事業参入できるよう体制を整えていきたいと考えております。

オフィスサプライ事業については、長年にわたる実績の中で膨大なノウハウを蓄積しているコールセンターというリソースを活用して、これまでにはない新たな商材の販売を模索・検討してまいります。また、再生可能エネルギー事業については、現在の保有案件を確実に完成させ、将来の安定収益確保に注力していく考えです。

こうした取り組みを通じて、第19期はより強固な収益体制を確立し、将来の「STOCK」を高めながら新たな収益源を確保してまいります。

Q 今後の事業展開や成長戦略など中長期的な展望をお聞かせください。

A 当社の強みである「STOCK」型のビジネスとは、継続収入の確保を基盤とするものであり、これにより生み出される安定的な収益をもとに新たな事業を開拓していくことで当社は着実に成長してまいりました。この成長を永続的に続けていくためにも、「STOCK」を生み出す基盤をひとつでも多く創造し、またより強固に育て上げることが当社の変わらぬ戦略であると考えております。第17期より本格的に参入をした再生可能エネルギー事業につきまし

大きな変革で「STOCK」経営の基盤強化へ

ても、収益を生み出せる体制が確立されつつあり、これを含めた当社既存事業をより安定したものとできるよう注力いたします。

今後も当社グループでは、「安定継続」事業の創造と成長を通じて、人に、社会に、「よりよく」を提供できる存在であり続けられるよう、「STOCK」型の収益構造の確立を目指してまいります。

Q 株主還元施策について、当期の配当額及び基本的な方針などについてお聞かせください。

A 当社では株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開のために必要な内部留保の確保を勘案しつつ、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針としております。これを踏まえ、第18期の配当金は前期と同額の1株当たり15円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後も末永いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第19期 連結業績予想 (平成28年3月期)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
	28,572 百万円	440 百万円	415 百万円	227 百万円

第18期 (平成27年3月期)	1株当たり配当金	配当性向
	15 円	11.9 %

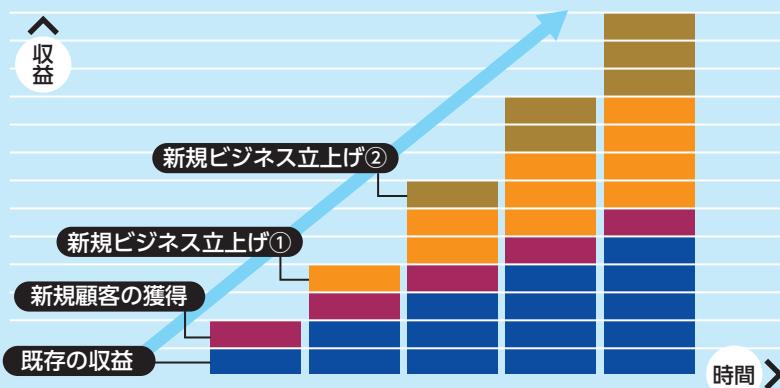


確かな「STOCK」を積み上げながら さらなる持続的安定成長を追求します。

絶えず変化するその時々々の事業環境の影響を最小限に抑えながら、継続的かつ安定的に収益を上げ、企業が成長していくためには、少しずつでも着実に積み上げていく「STOCK」が不可欠です。私たちアルファグループは、この「STOCK」をビジネスにおける最重要ファクターと捉え、今後も「安定継続」事業の創造と確立に注力してまいります。

■アルファグループの考える STOCK(ストック)型ビジネスモデル

継続的な成長を指向して、一定期間における継続的な収入を確保することにより、安定的に売上を積み重ねる蓄積型のビジネスモデルです。さらに当社グループでは、既存事業により生み出された「STOCK」をベースに新規顧客の獲得や新規ビジネスの立上げを進めていくことにより新たな「STOCK」を積み重ねることで、グループ全体のさらなる成長を追求しております。



■当社グループの事業内容



アルファインターナショナル株式会社

モバイル事業



モバイルマーケットの黎明期より「モバイル商材」に特化したマーケティング事業を行ってきました。これからも法人パートナーの皆さまとゴールを共有し、共に成長を目指してまいります。

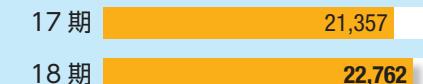
携帯電話等の通信端末の販売、及びその継続的な利用から発生する売上が当社を支える重要な収益基盤であり、これを生み出す販売網を強化するため、代理店に対し好立地への出店などの販売支援を実施して持続的成長に向けた投資を行うと共に、店舗の競争力を高めるため、これまで当社グループが培った成功事例・ノウハウを電子化した独自の教育及び接客サポートツールを開発し、どの地域でも、どの店舗でも、クオリティの高いサービスを提供できるよう当社販売網への普及を進めております。また、カバーケースをはじめとするアクセサリを専門で取り扱うショップを新たに開業するなど、副商材についても広く取り扱うことで新しい販売手法の確立にも取り組んでおります。

今後も、既存事業との親和性の高い新商材を開拓することで、新たな「STOCK」の確立に努めてまいります。

●売上高

22,762 百万円

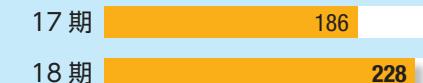
●売上高の推移(百万円)



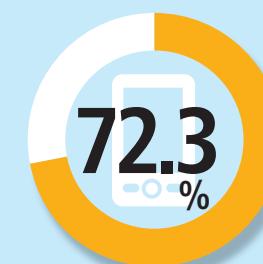
●営業利益

228 百万円

●営業利益の推移(百万円)



●セグメント別売上高比率



OFFICE SUPPLY / WATER DELIVERY

株式会社アルファライズ

オフィスサプライ事業
水宅配事業



オフィスの必需品である、文具・事務用品やOA/PC用品をはじめ、オフィス家具からDIY用品、衣料・介護用品まで、豊富なアイテムを収録。代理店の皆さまと共に、全国のオフィスを「よりよい」空間になるよう、サポートしています。

● オフィスサプライ事業

当社保有のコールセンターの活用により、「カウネット」の新規顧客獲得と既存登録顧客への継続利用の促進、Webを活用した新たな顧客獲得手法の確立に注力しております。また、既存事業のノウハウが活用できる新商材の開拓にも取り組んでまいります。

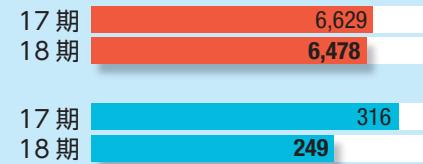
● 水宅配事業

既存のお客さまにウォーターパックをご購入いただくことで、継続的に収益を上げられるビジネスモデルを実現しています。

● 売上高

✏️ オフィスサプライ 💧 水宅配
6,478 百万円 **249** 百万円

● 売上高の推移 (百万円)



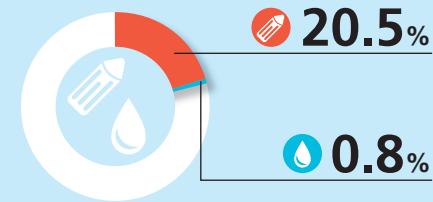
● 営業利益

✏️ オフィスサプライ 💧 水宅配
113 百万円 **84** 百万円

● 営業利益の推移 (百万円)



● セグメント別売上高比率



RENEWABLE ENERGY

アルファチーラー株式会社

再生可能エネルギー事業



当社施工物件

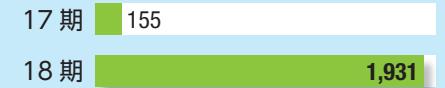
自然の力を利用して生み出される自然エネルギーの普及を支援し、人と社会によりよい次世代エネルギーインフラの実現を目指します。

再生可能エネルギーに関する固定価格買取制度の導入をきっかけとして、メガソーラー（大規模太陽光発電所）で発電する電力に対して20年間継続的に支払われる売電収入を新たな「STOCK」とすべく、当社グループは本事業に参入いたしました。再生可能エネルギー市場については、発電設備の新規接続申込みが相次いだため、一部地域において電力会社による接続検討の期間が長期化し、また法令の改正により電力会社による出力制御の範囲が広がるなど、先行き不透明な状態は続いていますが、すでに稼働を開始しているメガソーラーからの売電収入、また、当社グループで建設したメガソーラーの転売から得られる利益、及び転売した物件から生じる土地の賃料や完成した設備の保守料など、着実に収益が確保できる体制を構築しつつあります。

● 売上高

1,931 百万円

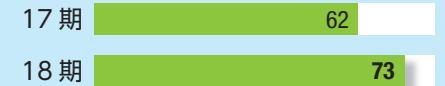
● 売上高の推移 (百万円)



● 営業利益

73 百万円

● 営業利益の推移 (百万円)



● セグメント別売上高比率

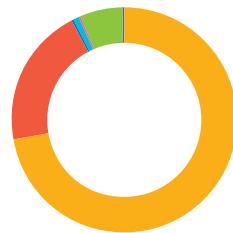


連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 (H27.3.31現在)	前期 (H26.3.31現在)
《資産の部》		
流動資産	7,138	7,454
固定資産	3,315	3,130
有形固定資産	2,305	1,979
無形固定資産	167	282
投資その他の資産	843	868
資産合計	10,453	10,585
《負債の部》		
流動負債	4,361	5,096
固定負債	2,374	2,523
負債合計	6,735	7,619
《純資産の部》		
株主資本	3,718	2,965
資本金	728	528
資本剰余金	688	488
利益剰余金	2,551	2,198
自己株式	△250	△250
純資産合計	3,718	2,965
負債・純資産合計	10,453	10,585

セグメント別売上高比率

モバイル事業	72.3%
オフィスサプライ事業	20.5%
IT事業	0.1%
水宅配事業	0.8%
福祉事業	0.1%
再生可能エネルギー事業	6.1%
その他事業	0.1%



連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 (H26.4.1~ H27.3.31)	前期 (H25.4.1~ H26.3.31)
売上高	31,490	28,595
売上原価	28,585	25,693
売上総利益	2,904	2,901
販売費及び一般管理費	2,399	2,456
営業利益	505	445
営業外収益	10	12
営業外費用	71	32
経常利益	444	425
特別利益	152	10
特別損失	28	132
税金等調整前当期純利益	568	303
法人税、住民税及び事業税	183	197
法人税等調整額	△12	11
少数株主損益調整前当期純利益	397	94
当期純利益	397	94

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期 (H26.4.1~ H27.3.31)	前期 (H25.4.1~ H26.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	454	△616
投資活動によるキャッシュ・フロー	△325	△1,867
財務活動によるキャッシュ・フロー	△337	3,076
現金及び現金同等物の増減額	△207	592
現金及び現金同等物の期首残高	2,052	1,460
現金及び現金同等物の期末残高	1,844	2,052

会社概要 (平成27年3月31日現在)

名称	アルファグループ株式会社
英文社名	Alpha Group Inc.
本社	東京都渋谷区東一丁目26番20号 東京建物東渋谷ビルディング14階
創業	平成6年11月30日
設立	平成9年10月8日
資本金	728,734千円
従業員数(連結)	101名

関係会社 (平成27年6月29日現在)

株式会社アルファライズ
アルファインターナショナル株式会社
アルファチャーラー株式会社

役員 (平成27年6月29日現在)

代表取締役社長	吉岡 伸一郎
取締役	徳山 宗年
取締役	山中 一浩
取締役(社外)	西野 裕
監査役(常勤・社外)	松 寄 進
監査役(社外)	高 橋 雷太
監査役(社外)	青 村 克彦

株式状況 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数	10,080,000株
発行済株式の総数	3,481,200株
株主数	746名

大株主

株主名	持株数 (株)	議決権 比率(%)
吉岡 伸一郎	847,900	25.39
上 岳史	847,300	25.37
株式会社エクステンド	378,800	11.34
株式会社光通信	304,100	9.10
株式会社マルチメディアネットワーク	171,600	5.13
株式会社SBI証券	157,600	4.72
鷲見 貴彦	130,000	3.89
尾崎 昌宏	27,300	0.81
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	20,000	0.59
鷲見 和美	18,500	0.55

(注)上記のほか、自己株式が142,500株あります。

所有者別株式分布状況

